

I 調査結果の概要

1 素材需給の動向

(1) 素材の需要

平成21年の素材の需要量（＝供給量）は2,280万3千 m^3 で、前年に比べて323万3千 m^3 （12.4%）減少した。

これを需要部門別にみると、「製材用」は1,527万9千 m^3 、「合板用」は310万7千 m^3 で、住宅需要が大きく落ち込んだことなどから前年に比べてそれぞれ228万9千 m^3 （13.0%）、87万9千 m^3 （22.1%）減少した。

また、「木材チップ用」は441万7千 m^3 で、素材・工場残材の減少により前年に比べて6万5千 m^3 （1.5%）減少した。

この結果、需要部門別の構成割合は、「製材用」が67.0%、「合板用」が13.6%、「木材チップ用」が19.4%となった。（表1、図1）

図1 素材需要量の推移

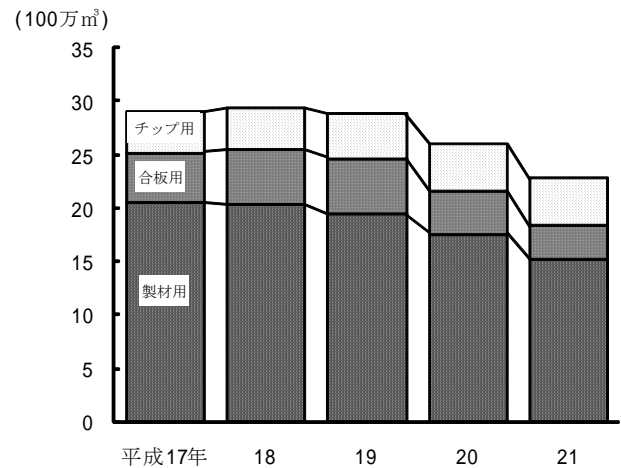


表1 需要部門別素材需要量

単位：千 m^3

年次	計	製材用	合板用	木材チップ用
平成21年	22,803	15,279	3,107	4,417
対前年比 (%)	87.6	87.0	77.9	98.5
構成比 (%)	100.0	67.0	13.6	19.4

(参考) 関連統計表

年次	1) 新設住宅着工戸数		2) 紙・板紙生産量		2) 製紙パルプ生産量	
	千戸	千戸	千t	千t	千t	千t
平成21年	788	430	26,268		8,501	
対前年比 (%)	72.1	83.2	85.8		79.7	

資料：1) 国土交通省『建築着工統計』
2) 経済産業省『紙・印刷・プラスチック・ゴム製品統計年報』

(2) 素材の供給

素材の供給量（＝需要量）は、国産材が1,661万9千 m^3 で前年に比べて109万 m^3 （6.2%）減少した。これは、住宅需要が大きく落ち込んだことによる。

また、外材は618万4千 m^3 で主に米材や北洋材等が減少したことから、前年に比べて214万3千 m^3 （25.7%）減少した。これは、住宅需要が大きく落ち込んだことに加え、北洋材については丸太の輸出税率の引き上げ予定により国産材へ移行したこと等による。

この結果、素材供給量に占める国産材の割合は72.9%となり、前年を4.9ポイント上回った。（表2及び3、図2）

図2 材種別素材供給量の推移

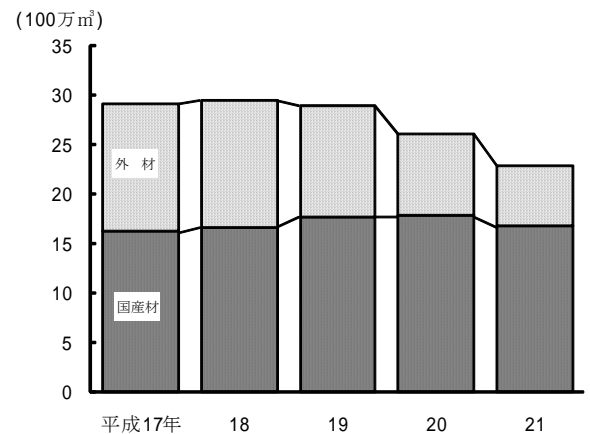


表2 国産材、外材別素材供給量

単位：千 m^3

年次	計	国産材	外材
平成21年	22,803	16,619	6,184
対前年比 (%)	87.6	93.8	74.3
構成比 (%)	100.0	72.9	27.1

表3 需要部門別、材種別素材供給量

単位：千m³

区分	計	国産材			外材							
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	ラワン材	米材	北洋材	ニューシ- ラント材	その他	
平成21年												
計	22,803	16,619	13,976	2,643	6,184	493	394	3,732	1,117	634	208	
製材用	15,279	10,243	10,077	166	5,036	92	8	3,532	671	569	172	
合板用	3,107	1,979	1,972	7	1,128	399	384	194	443	64	28	
木材チップ用	4,417	4,397	1,927	2,470	20	2	2	6	3	1	8	
対前年比(%)												
計	87.6	93.8	93.3	96.7	74.3	73.4	78.2	84.6	51.6	73.2	97.7	
製材用	87.0	92.2	92.2	92.2	78.0	67.2	57.1	82.8	64.8	68.3	92.5	
合板用	77.9	92.6	93.8	20.6	61.0	74.6	78.4	143.7	39.4	193.9	121.7	
木材チップ用	98.5	98.5	99.2	98.0	100.0	nc	nc	75.0	37.5	nc	200.0	
構成比(%)												
計	100.0	72.9	61.3	11.6	27.1	2.2	1.7	16.4	4.9	2.8	0.9	
製材用	100.0	67.0	66.0	1.1	33.0	0.6	0.1	23.1	4.4	3.7	1.1	
合板用	100.0	63.7	63.5	0.2	36.3	12.8	12.4	6.2	14.3	2.1	0.9	
木材チップ用	100.0	99.5	43.6	55.9	0.5	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.2	

ア 国産材の供給

国産材の供給量（全国計のみ素材生産量と等しい。）を針葉樹、広葉樹別にみると、針葉樹は1,397万6千m³で、主に「製材用」が減少したことから、前年に比べて99万9千m³（6.7%）減少した。

これを樹種別にみると、「ひのき」は前年に比べて7万1千m³（3.8%）増加したものの、「すぎ」及び「からまつ」は製材用の生産量が減少したことから、前年に比べてそれぞれ49万2千m³（5.6%）、37万4千m³（16.3%）減少した。

また、広葉樹は264万3千m³で、主に製材用の生産量が減少したことから、前年に比べて9万1千m³（3.3%）減少した。

（表3及び4、図3）

図3 樹種別素材生産量の推移

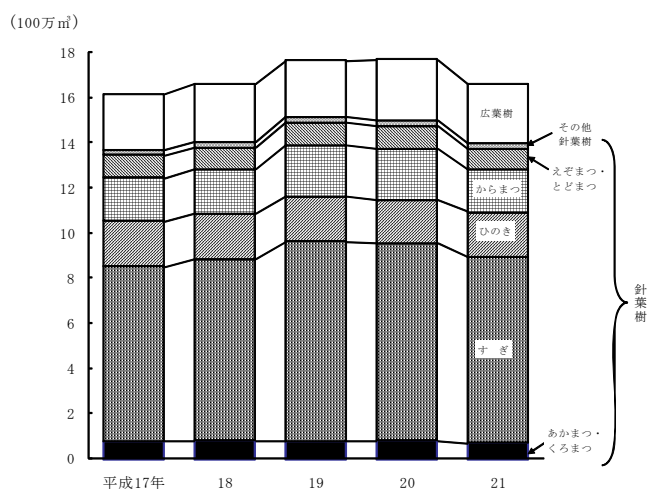


表4 需要部門別、樹種別素材生産量

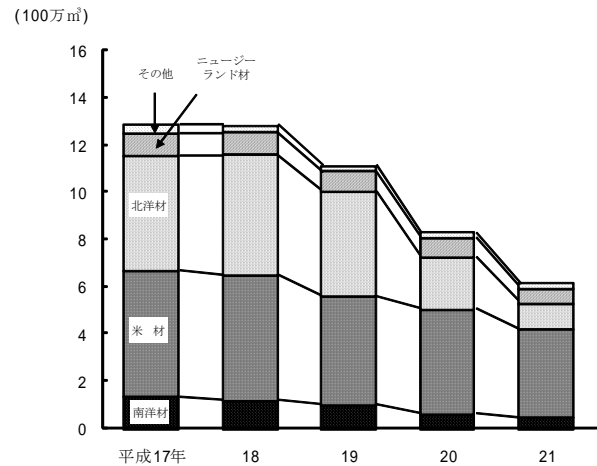
単位：千m³

区分	計	針葉樹							広葉樹
		小計	あかまつ・くろまつ	すぎ	ひのき	からまつ	えぞまつ・とどまつ	その他	
平成21年									
計	16,619	13,976	704	8,263	1,957	1,923	898	231	2,643
製材用	10,243	10,077	235	6,352	1,745	971	716	58	166
合板用	1,979	1,972	61	1,176	81	607	30	17	7
木材チップ用	4,397	1,927	408	735	131	345	152	156	2,470
対前年比(%)									
計	93.8	93.3	86.4	94.4	103.8	83.7	90.9	98.7	96.7
製材用	92.2	92.2	104.4	93.7	98.2	75.6	91.4	74.4	92.2
合板用	92.6	93.8	45.2	90.7	324.0	102.5	85.7	89.5	20.6
木材チップ用	98.5	99.2	89.7	108.7	156.0	82.1	89.4	113.9	98.0
構成比(%)									
計	100.0	84.1	4.2	49.7	11.8	11.6	5.4	1.4	15.9
製材用	100.0	98.4	2.3	62.0	17.0	9.5	7.0	0.6	1.6
合板用	100.0	99.6	3.1	59.4	4.1	30.7	1.5	0.9	0.4
木材チップ用	100.0	43.8	9.3	16.7	3.0	7.8	3.5	3.5	56.2

イ 外材の供給

外材の供給量を産地材別にみると、米材は373万2千m³、北洋材は111万7千m³、ニュージーランド材は63万4千m³で、前年と比べてそれぞれ67万8千m³（15.4%）、104万9千m³（48.4%）、23万2千m³（26.8%）減少した。（表3、図4）

図4 外材供給量の推移



2 木材産業の動向

(1) 製材業

ア 製材工場数及び製材用動力の出力数

平成21年12月31日現在の製材工場数は6,865工場で、前年と比べて513工場（7.0%）減少した。

これを製材用動力の出力階層別にみると、主に「37.5～75.0kW未満」、「22.5～37.5kW未満」及び「75.0～150.0kW未満」の階層においてそれぞれ319工場（12.1%）、88工場（5.9%）、68工場（5.2%）減少した。

製材用動力の総出力数は72万883.3kWで、前年と比べて3万2,638kW（4.3%）減少したものの、1工場当たりの出力数は105.0kWで、前年と比べて2.9kW（2.8%）増加した。（表5）

表5 製材工場数、製材用動力の出力数（平成21年12月31日現在）

出力階層	単位	平成21年	対前年比	構成比
工場数計	工場	6,865	93.0	100.0
7.5～22.5kW未満	〃	799	101.1	11.6
22.5～37.5	〃	1,413	94.1	20.6
37.5～75.0	〃	2,309	87.9	33.6
75.0～150.0	〃	1,241	94.8	18.1
150.0～300.0	〃	649	95.3	9.5
300.0kW以上	〃	454	96.8	6.6
総出力数	kW	720,883.3	95.7	-
1工場当たり出力数	〃	105.0	102.8	-

イ 従業員数

平成21年12月31日現在で操業している工場の従業員数は3万4,970人で、前年と比べて3,290人（8.6%）減少し、1工場当たりの従業員数は5.1人で、前年と比べて0.1人（1.9%）減少した。（表6）

表6 従業員数規模別製材工場数及び従業員数（12月操業）

年次	従業員数規模別製材工場数（12月操業）							従業員数 (12月31日現在)	1工場当たり従業員数
	計	4人以下	5～9	10～19	20～29	30～49	50人以上		
平成21年	6,827	4,542	1,510	556	134	54	31	34,970	5.1
対前年比(%)	93.0	95.3	89.7	84.0	94.4	87.1	110.7	91.4	98.1
構成比(%)	100.0	66.5	22.1	8.1	2.0	0.8	0.5	-	-

ウ 製材用素材消費量

平成21年の製材用素材消費量は1,546万5千m³で、前年に比べて215万4千m³（12.2%）減少した。

これを製材用動力の出力階層別にみると、主に「300.0kW以上」、「150.0～300.0kW未満」及び「75.0～150.0kW未満」の階層においてそれぞれ105万6千m³（10.5%）、40万4千m³（13.9%）、32万3千m³（14.3%）減少した。

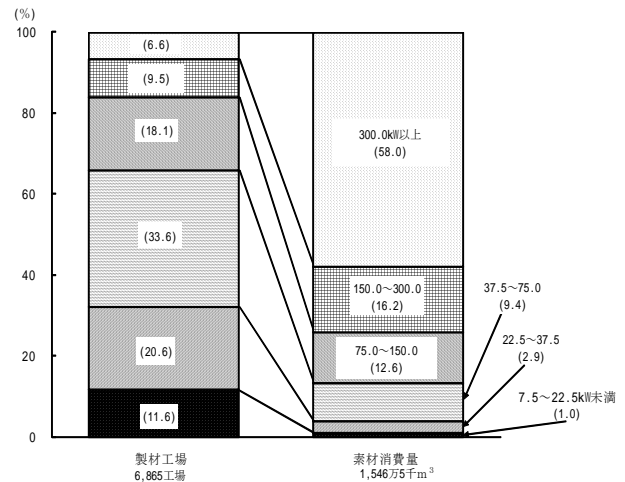
なお、1工場当たりの素材消費量は2,253m³で、前年に比べて135m³（5.7%）減少した。

（表7、図5）

表7 製材用動力の出力階層別素材消費量

出力階層	単位	平成21年	対前年比	構成比
計	千m ³	15,465	87.8	100.0
7.5～22.5kW未満	〃	162	92.0	1.0
22.5～37.5	〃	447	84.3	2.9
37.5～75.0	〃	1,447	84.1	9.4
75.0～150.0	〃	1,943	85.7	12.6
150.0～300.0	〃	2,500	86.1	16.2
300.0kW以上	〃	8,966	89.5	58.0
1工場当たり消費量	m ³	2,253	94.3	-

図5 製材工場数及び素材消費量の出力階層別構成割合（平成21年）



エ 製材用素材入荷量

(ア) 平成21年の製材用素材入荷量は1,527万9千m³で、前年に比べて228万9千m³（13.0%）減少した。

これを国産材、外材別にみると、国産材の入荷量は1,024万3千m³で前年に比べて86万7千m³（7.8%）減少し、外材の入荷量は503万6千m³で前年に比べて142万2千m³（22.0%）減少した。

この結果、製材用素材入荷量に占める国産材の割合は67.0%で、前年（63.2%）を3.8ポイント上回った。（表8、図6）

図6 製材用素材の入荷量の推移

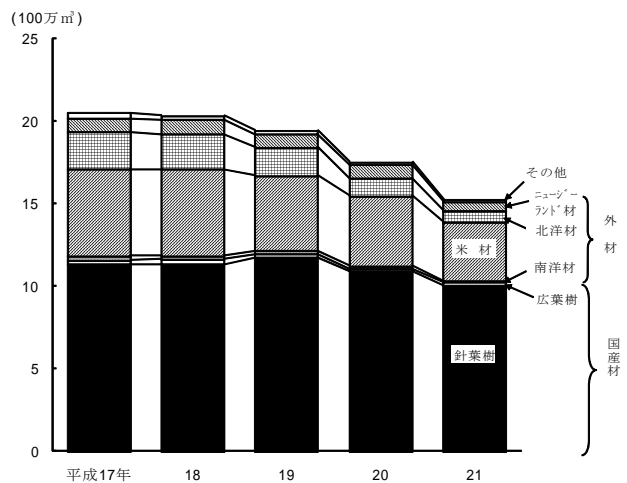


表8 材種別製材用素材の入荷量

単位：千m³

年次	計	国産材			外材						
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	ラワン材	米材	北洋材	ニューゼーランド材	その他
平成21年	15,279	10,243	10,077	166	5,036	92	8	3,532	671	569	172
対前年比 (%)	87.0	92.2	92.2	92.2	78.0	67.2	57.1	82.8	64.8	68.3	92.5
構成比 (%)	100.0	67.0	66.0	1.1	33.0	0.6	0.1	23.1	4.4	3.7	1.1

(イ) 素材の入荷があった製材工場は6,801工場で、前年に比べて529工場（7.2%）減少した。
これを入荷類型別の工場数でみると、国産材のみは4,543工場、国産材と外材は1,717工場、
外材のみは541工場で、前年に比べてそれぞれ118工場（2.5%）、358工場（17.3%）、53工場
（8.9%）減少した。

入荷量でみると、国産材と外材は319万 m^3 で、前年に比べて22万8千 m^3 （7.7%）増加した
ものの、国産材のみは902万5千 m^3 、外材のみは306万4千 m^3 で、前年に比べてそれぞれ59万
7千 m^3 （6.2%）、192万 m^3 （38.5%）減少した。

また、製材用動力の出力階層別にみると、300.0kW以上の工場が入荷量の全体の約6割を
占めている。（表9）

表9 製材用動力の出力階層別、入荷類型別製材工場数及び入荷量

出力階層	計		国産材のみ		国産材と外材		外材のみ	
	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量
平成21年								
計	6,801	15,279	4,543	9,025	1,717	3,190	541	3,064
7.5～22.5kW未満	789	151	621	118	133	25	35	8
22.5～37.5	1,390	469	1,018	326	284	113	88	30
37.5～75.0	2,291	1,429	1,510	998	634	330	147	101
75.0～150.0	1,232	1,951	724	1,164	383	554	125	233
150.0～300.0	647	2,473	382	1,608	190	572	75	293
300.0kW以上	452	8,806	288	4,811	93	1,596	71	2,399
対前年比(%)								
計	92.8	87.0	97.5	93.8	82.7	107.7	91.1	61.5
7.5～22.5kW未満	100.5	85.3	100.2	88.7	106.4	75.8	87.5	72.7
22.5～37.5	93.9	89.2	93.9	82.1	86.6	108.7	127.5	120.0
37.5～75.0	87.5	82.2	97.0	96.8	71.6	64.2	83.5	52.1
75.0～150.0	95.0	86.6	98.1	89.0	91.4	85.0	89.3	79.5
150.0～300.0	95.0	85.0	101.1	91.5	90.0	84.6	81.5	61.6
300.0kW以上	96.8	88.4	101.4	96.3	87.7	162.4	92.2	60.2

注：工場数は、平成21年に製材用素材の入荷のあった工場数である。

オ 製材品出荷量

製材品出荷量は929万1千 m^3 で、前年に
比べて159万3千 m^3 （14.6%）減少した。

出荷量を用途別にみると、主に「建築用
材」、「木箱仕組板・こん包用材」及び「土
木建設用材」の用途においてそれぞれ116万
5千 m^3 （13.2%）、26万7千 m^3 （21.3%）、
6万1千 m^3 （14.6%）減少した。

また、人工乾燥材出荷量は228万 m^3 で、前
年に比べて6万8千 m^3 （2.9%）減少したも
のの、出荷量計における人工乾燥材出荷量
の割合は24.5%と前年に比べて2.9ポイント
上回った。（表10、図7）

図7 用途別製材品出荷量の推移

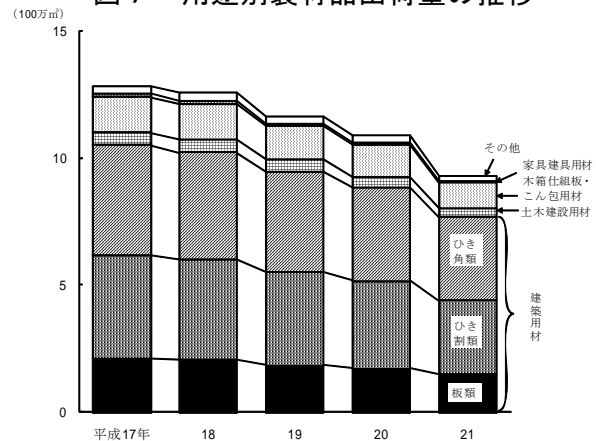


表10 用途別製材品出荷量

年次	計	建築用材					土木建設 用材	木箱仕組 板・こん 包用材	家具・ 建具用材	その他 用材
		人工乾燥材	小計	板類	ひき割類	ひき角類				
平成21年	9,291	2,280	7,671	1,494	2,899	3,278	357	987	72	204
対前年比(%)	85.4	97.1	86.8	87.1	84.5	88.8	85.4	78.7	92.3	68.5
構成比(%)	100.0	24.5	82.6	16.1	31.2	35.3	3.8	10.6	0.8	2.2

単位：千 m^3

(2) 合単板製造業

ア 合単板工場数及び従業者数

平成21年12月31日現在の合単板工場数は208工場で、前年に比べて25工場（10.7%）減少した。これは、単板のみ製造している工場、普通合板のみ製造している工場、普通合板と特殊合板を製造している工場及び特殊合板のみ製造している工場において前年に比べてそれぞれ2工場（9.1%）、3工場（8.3%）、4工場（44.4%）、16工場（9.6%）減少したことによる。合単板工場の従業者数は8,921人で前年に比べて1,119人（11.1%）減少した。なお、1工場当たりの従業者数は42.9人で、前年に比べて0.2人減少した。（表11）

表11 工場類型別、従業者規模別合単板工場数及び従業者数（平成21年12月31日現在）

工場類型	従業者数規模別工場数								従業者数		1工場当たり従業者数
	計		9人以下	10～49	50～99	100～199	200～299	300人以上	実数	対前年比	
	実数	対前年比									
	工場	%	工場	工場	工場	工場	工場	工場	人	%	人
計	208	89.3	85	76	18	19	7	3	8,921	88.9	42.9
単板のみ	20	90.9	5	11	1	3	-	-	783	113.0	39.2
普通合板のみ	33	91.7	-	7	9	13	3	1	1)4,459	1)89.6	1)117.3
普通合板と特殊合板	5	55.6	-	1	2	-	2	-
特殊合板のみ	150	90.4	80	57	6	3	2	2	3,679	84.1	24.5

注：1)は、「普通合板のみ」と「普通合板と特殊合板」の合計を表示している。

イ 単板製造用素材入荷量

平成21年の単板製造用素材の入荷量は310万7千 m^3 で、前年に比べて87万9千 m^3 （22.1%）減少した。

これを国産材、外材別にみると、国産材は197万9千 m^3 、外材は112万8千 m^3 で、前年に比べてそれぞれ15万8千 m^3 （7.4%）、72万1千 m^3 （39.0%）減少した。

この結果、単板製材用素材入荷量に占める国産材の割合は63.7%で、前年（53.6%）を10.1ポイント上回った。

（表12、図8）

図8 単板製造用素材の入荷量の推移

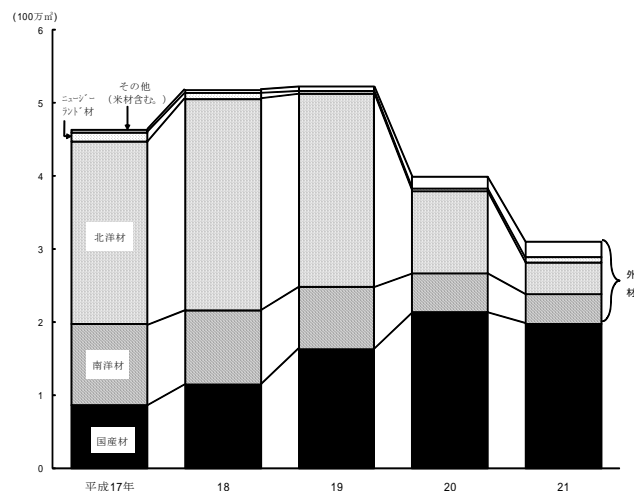


表12 材種別単板製造用素材の入荷量

単位：千 m^3

年次	計	国産材			外材							
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	針葉樹	南洋材	ラワン材	米材	北洋材	ニュージーランド材	その他
平成21年	3,107	1,979	1,972	7	1,128	672	399	384	194	443	64	28
対前年比 (%)	77.9	92.6	93.8	20.6	61.0	52.7	74.6	78.4	143.7	39.4	193.9	121.7
構成比 (%)	100.0	63.7	63.5	0.2	36.3	21.6	12.8	12.4	6.2	14.3	2.1	0.9

ウ 普通合板生産量

平成21年の普通合板生産量は228万7千 m^3 で、前年に比べて29万9千 m^3 （11.6%）減少した。厚さ別にみると、主に「12mm以上」及び「6～12mm未満」の階層で前年に比べてそれぞれ20万7千 m^3 （10.0%）、5万4千 m^3 （14.6%）減少した。

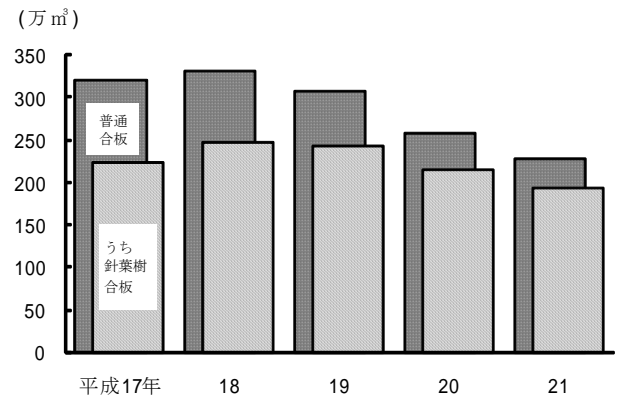
また、生産量のうち、針葉樹合板生産量は192万8千 m^3 で、前年に比べて22万8千 m^3 （10.6%）減少した。

この結果、普通合板生産量に占める針葉樹合板生産量の割合は84.3%で、前年（83.4%）を0.9ポイント上回った。（表13、図9）

表13 普通合板生産量

区 分	平成21年	対前年比	構成比
	千 m^3	%	%
普通合板生産量	2,287	88.4	100.0
3 mm 未 満	24	72.7	1.0
3 ～ 6 mm	82	73.9	3.6
6 ～ 12 mm	315	85.4	13.8
12 mm 以 上	1,866	90.0	81.6
うち針葉樹合板	1,928	89.4	84.3

図9 普通合板生産量の推移



エ 特殊合板生産量

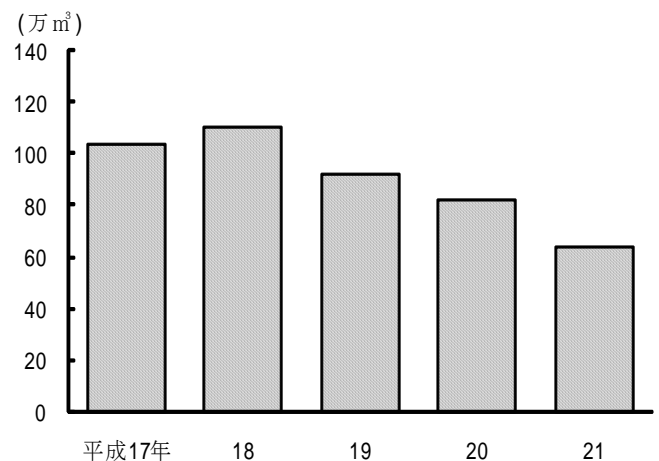
平成21年の特殊合板生産量は63万6千 m^3 で、前年に比べて18万9千 m^3 （22.9%）減少した。

これを種類別にみると、オーバーレイ合板は1万7千 m^3 、プリント合板は7万 m^3 、塗装合板は1万3千 m^3 、天然木化粧合板は3万3千 m^3 、その他の合板は50万3千 m^3 で、前年に比べてそれぞれ減少した。（表14、図10）

表14 特殊合板生産量

区 分	平成21年	対前年比	構成比
	千 m^3	%	%
特殊合板生産量	636	77.1	100.0
オーバーレイ合板	17	54.8	2.7
プリント合板	70	67.3	11.0
塗 装 合 板	13	50.0	2.0
天然木化粧合板	33	68.8	5.2
そ の 他 の 合 板	503	81.7	79.1
うち木質複合床板	342	80.7	53.8

図10 特殊合板生産量の推移



(3) 木材チップ製造業

ア 木材チップ工場数及び従業者数

平成21年12月31日現在の木材チップ工場数は1,663工場で、前年に比べて81工場（4.6%）減少した。

これを専門・兼営区分別にみると、「木材チップ専門工場」は353工場で、前年に比べて16工場（4.3%）減少し、「製材又は合単板工場との兼営工場」は1,310工場で、前年に比べて65工場（4.7%）減少した。

木材チップ工場の従業者数は2,847人で、前年に比べて187人（6.2%）減少した。

また、1工場当たりの従業者数は1.7人で、前年と同数だった。（表15）

表15 専門・兼営区分別、従業者数規模別木材チップ工場数及び従業者数
（平成21年12月31日現在）

専門・兼営区分別	従業者数規模別工場数						従業者数		1工場当たり従業者数
	計		4人以下	5～9	10～19	20人以上	実数	対前年比	
	実数	対前年比							
工場	%	工場	工場	工場	工場	人	%	人	
計	1,663	95.4	1,480	136	37	10	2,847	93.8	1.7
木材チップ専門工場	353	95.7	191	118	36	8
製材又は合単板工場との兼営工場	1,310	95.3	1,289	18	1	2

注：従業者数については、「木材チップ専門工場」及び「製材又は合単板工場との兼営工場」別に集計を行っていない。

イ 木材チップ用素材入荷量

平成21年の木材チップ用の素材入荷量は441万7千m³で、前年に比べて6万5千m³（1.5%）減少した。

これを国産材、外材別にみると、国産材の入荷量は439万7千m³で、前年に比べて6万5千m³（1.5%）減少し、外材の入荷量は2万m³で、前年と同量だった。

（表16、図11）

図11 木材チップ用素材の入荷量の推移

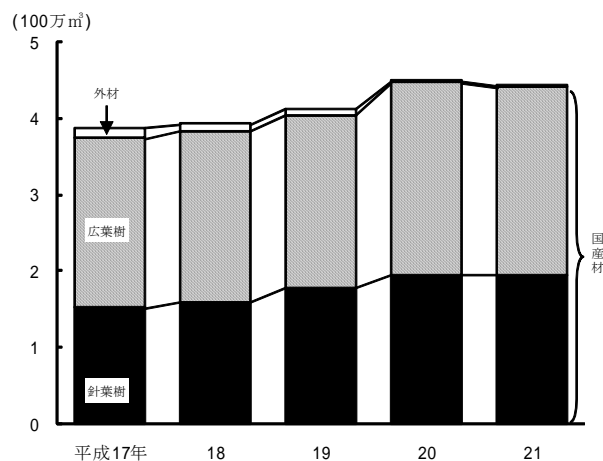


表16 材種別木材チップ製造用素材の入荷量

年次	計	国産材				外材						
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	ラワン材		米材	北洋材	ニューズランド材	その他
平成21年	4,417	4,397	1,927	2,470	20	2	2	6	3	1	8	
対前年比 (%)	98.5	98.5	99.2	98.0	100.0	nc	nc	75.0	37.5	nc	200.0	
構成比 (%)	100.0	99.5	43.6	55.9	0.5	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.2	

単位：千m³

ウ 木材チップ生産量及び出荷量

平成21年の木材チップ生産量は512万9千tで、前年に比べて66万8千t（11.5%）減少した。

これを原材料別にみると、「林地残材」は前年に比べて4千t（3.8%）増加したものの、「素材（原木）」、「工場残材」及び「解体材・廃材」は前年に比べてそれぞれ27万8千t（10.4%）、22万4千t（11.7%）、17万t（15.4%）減少した。

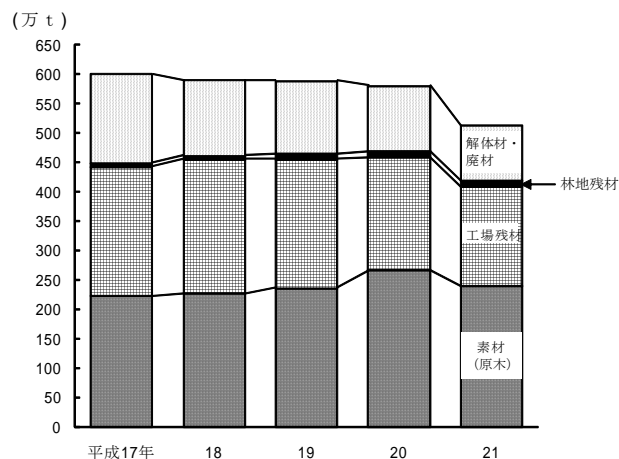
また、針葉樹・広葉樹別にみると、「針葉樹」は259万8千tで前年に比べて11.0%減少し、「広葉樹」は159万7千tで前年に比べて10.0%減少した。（表17、図12）

表17 木材チップ生産量

区 分	平成21年	対前年比	構成比
	千 t	%	%
木材チップ生産量	5,129	88.5	100.0
原材料別			
素材（原木）	2,398	89.6	46.8
工場残材	1,689	88.3	32.9
林地残材	108	103.8	2.1
解体材・廃材	934	84.6	18.2
針葉樹・広葉樹別			
針葉樹	2,598	89.0	-
広葉樹	1,597	90.0	-

注：針葉樹・広葉樹別には解体材・廃材を含んでいない。

図12 木材チップ生産量の推移



3 木材価格の動向

(1) 素材価格（丸太価格）（表18、図13）

素材価格は、国産材は平成20年秋以降の世界的な金融危機を背景とした新設住宅着工数の大幅な減少により低下傾向にあり、平成21年平均ではおおむね前年に比べて低下した。外材は、年平均では北洋材がロシア政府の輸出税率の引上げ予定の影響等により上昇傾向となったが、米材は低下傾向となった。

また、品目別の価格の動向は次のとおりである。

- ア 「まつ中丸太」（径24.0～28.0cm、長3.65～4.0m）は、年間をとおして低下傾向で推移し、年平均（1㎡当たり。以下同じ。）では1万3,200円で前年に比べて1,100円低下した。
- イ 「すぎ中丸太」（径14.0～22.0cm、長3.65～4.0m）は、年の前半が低下傾向で推移していたことから、年平均では1万900円で前年に比べて1,300円低下した。
- ウ 「ひのき中丸太」（径14.0～22.0cm、長3.65～4.0m）は、年の後半上昇傾向で推移したものの、年の前半が低下傾向で推移していたことから、年平均では2万1,300円で前年に比べて2,300円低下した。
- エ 「米つが丸太」（径30.0cm上、長6.0m上、No.3）は、年間をとおして低下傾向で推移し、年平均では2万3,500円で前年に比べて3,800円低下した。
- オ 「北洋えぞまつ丸太」（径20.0～28.0cm、長3.8m上）は、年間をとおして低下傾向で推移したものの、年初に大きく上昇したことから、年平均では2万4,400円で前年に比べて1,400円上昇した。

表18 素材価格

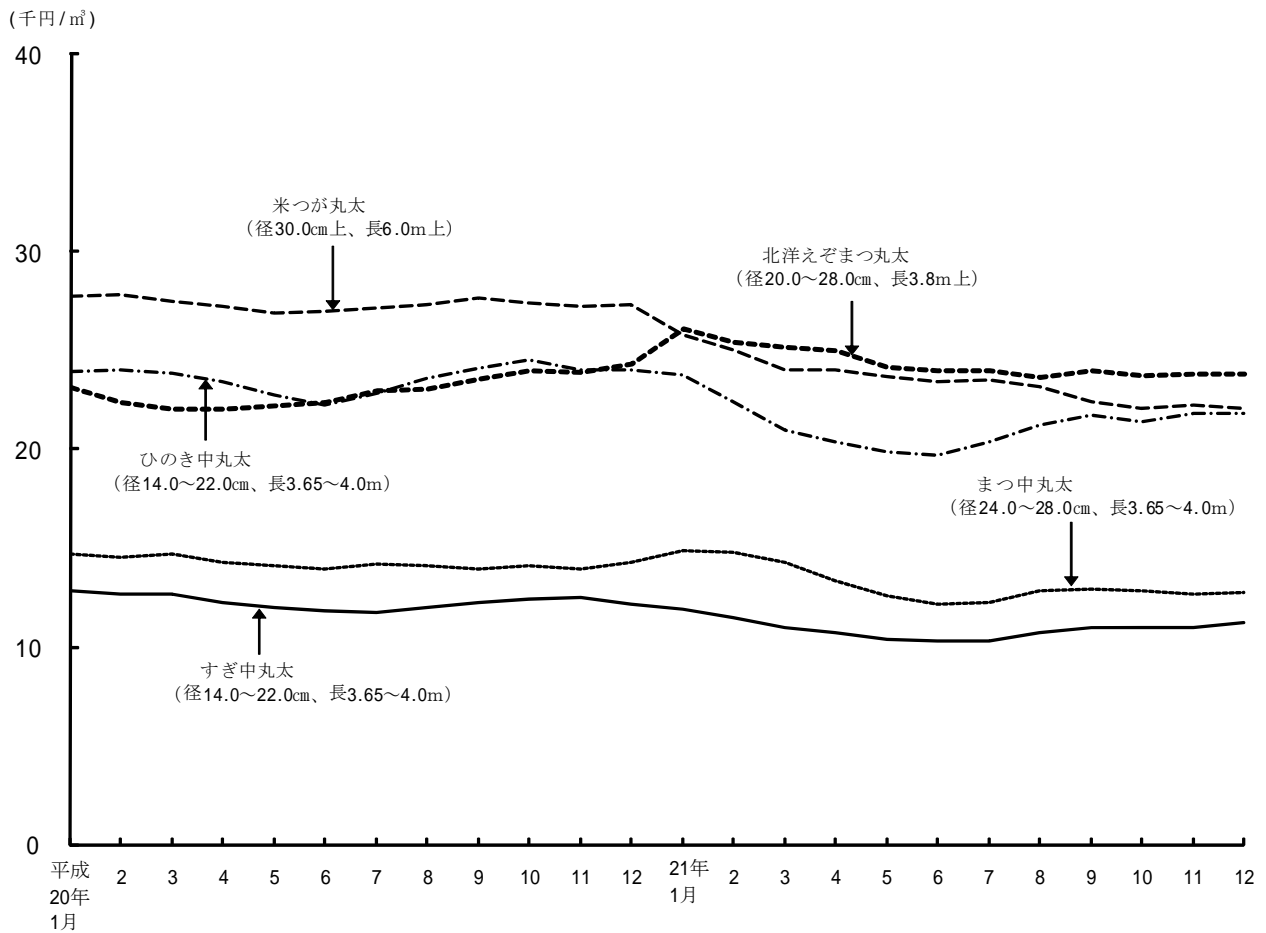
単位：円/㎡

年次	まつ	すぎ	ひのき	米つが	北洋えぞまつ
	中丸太	中丸太	中丸太	丸太	丸太
	径 24.0～28.0 cm 長 3.65～4.0 m	径 14.0～22.0 cm 長 3.65～4.0 m	径 14.0～22.0 cm 長 3.65～4.0 m	径 30.0 cm上 長 6.0 m上	径 20.0～28.0 cm 長 3.8 m上
	込み	込み	込み	No.3	込み
平均価格					
平成17年	...	1) 12,400	1) 25,200	1) 23,500	...
18	...	1) 12,700	1) 26,500	1) 24,100	...
19	15,200	13,300	25,500	1) 27,200	23,600
20	14,300	12,200	23,600	27,300	23,000
21	13,200	10,900	21,300	23,500	24,400
対前年差					
平成18年	...	300	1,300	600	...
19	...	600	1,000	3,100	...
20	900	1,100	1,900	100	600
21	1,100	1,300	2,300	3,800	1,400

注：平成19年1月から調査対象都道府県を変更したため、過年次価格の遡及ができない「まつ中丸太」及び「北洋えぞまつ丸太」については平成18年以前の価格を「…」とした。

1) が付いた価格は、調査対象工場への消費税の取扱いの確認が困難なため、消費税を含む価格と含まない価格を集計した結果である。

図13 素材価格の推移



(2) 木材製品卸売価格 (表19、図14)

木材製品卸売価格は、国産材製品は平成20年秋以降の世界的な金融危機を背景とした新設住宅着工数の大幅な減少により低下傾向にあり、平成21年平均ではおおむね前年に比べて低下傾向となった。外材製品は、「北洋えぞまつ板」が大きく上昇したほかは、おおむね前年に比べて低下傾向となった。

また、品目別の価格の動向は次のとおりである。

ア 製材品

- (ア) 「まつ平角」(厚10.5~12.0cm、幅24.0cm、長3.65~4.0m)は、年間をとおして安定して推移し、年平均では6万200円で前年と同じだった。
- (イ) 「すぎ正角」(厚10.5cm、幅10.5cm、長3.0m)は、年間をとおして低下傾向で推移し、年平均では4万1,700円で前年に比べて700円低下した。
- (ウ) 「ひのき正角」(厚10.5cm、幅10.5cm、長3.0m)は、年の前半が低下傾向で推移したことから、年平均では6万6,300円で前年に比べて1,600円低下した。
- (エ) 「米つが正角(防腐処理材)」(厚12.0cm、幅12.0cm、長4.0m)は、年間をとおして低下傾向で推移し、年平均では6万6,800円で前年に比べて1,100円低下した。
- (オ) 「北洋えぞまつ板」(厚1.2~1.5cm、幅15.0cm、長3.65~4.0m)は、年初に大きく上昇し、その後年間をとおして安定して推移したことから、年平均では6万4,200円で前年に比べて4,500円上昇した。

イ 合板

「針葉樹合板」（厚1.2cm、幅91.0cm、長1.82m）は、年の半ばに上昇傾向となったものの、年の前半・後半が低下傾向だったことから、年平均では860円で前年に比べて130円低下した。

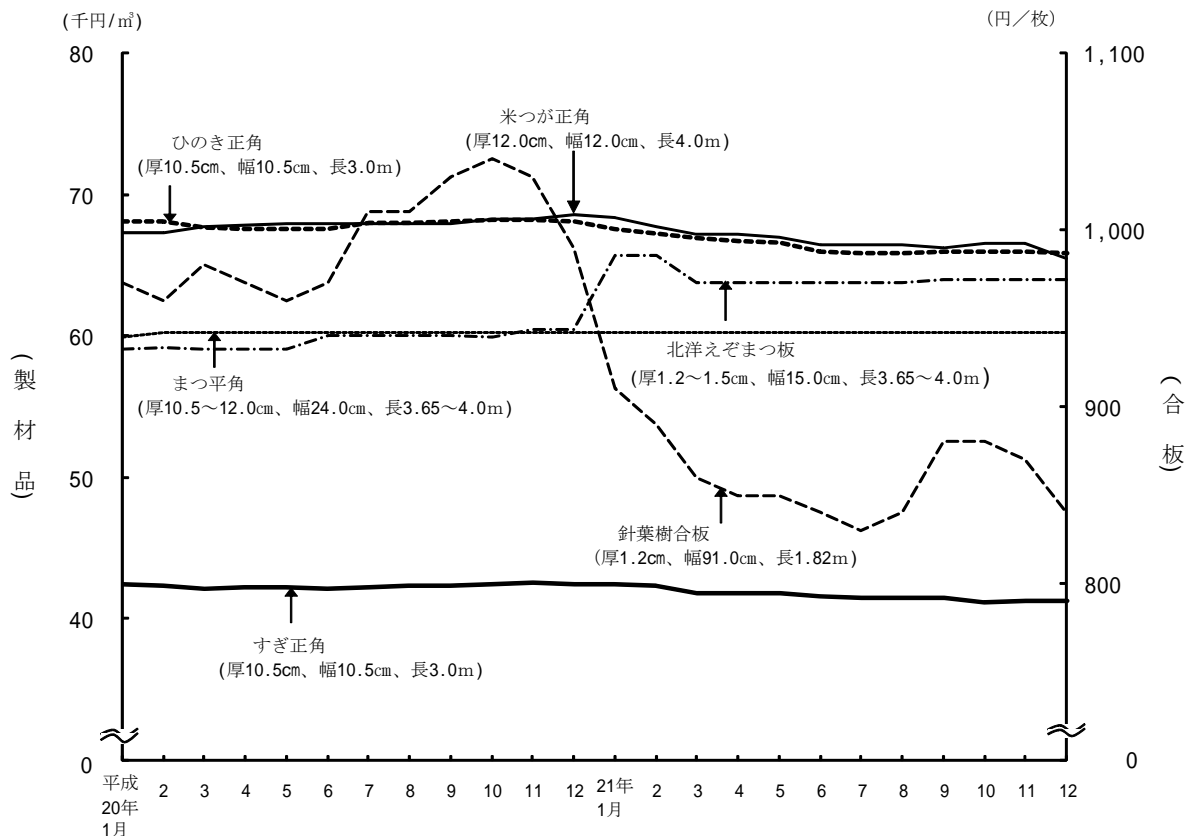
表19 木材製品卸売価格

年次	まつ平角	すぎ正角	ひのき正角	米つが正角 (防腐処理材)	北洋えぞまつ板	針葉樹合板
	厚 10.5~12.0 cm 幅 24.0 cm 長 3.65~4.0 m	厚 10.5 cm 幅 10.5 cm 長 3.0 m	厚 10.5 cm 幅 10.5 cm 長 3.0 m	厚 12.0 cm 幅 12.0 cm 長 4.0 m	厚 1.2~1.5 cm 幅 15.0 cm 長 3.65~4.0m	厚 1.2 cm 幅 91.0 cm 長 1.82 m
	2 級	2 級	2 級	2 級	1 級	1 類
平均価格	円/m ³	円/m ³	円/m ³	円/m ³	円/m ³	円/枚
平成17年	...	40,700	66,300	...	45,000	960
18	...	40,700	64,400	...	47,200	1,070
19	1) 54,300	42,900	69,600	68,300	1) 61,100	1,370
20	60,200	42,400	67,900	67,900	59,700	990
21	60,200	41,700	66,300	66,800	64,200	860
対前年差						
平成18年	...	0	1,900	...	2,200	110
19	...	2,200	5,200	...	13,900	300
20	5,900	500	1,700	400	1,400	380
21	0	700	1,600	1,100	4,500	130

注：平成19年1月から調査対象道府県を変更したため、過年次価格の遡及ができない「まつ平角」及び「米つが正角（防腐処理材）」については平成18年以前の価格を「…」とした。

1) が付いた価格は、調査対象工場への消費税の取扱いの確認が困難なため、消費税を含む価格と含まない価格を集計した結果である。

図14 木材製品卸売価格の推移



(3) 木材チップ価格

平成21年の木材チップの価格は、年間をとおして低下傾向で推移したものの、年当初に価格を上げたことから、年平均では針葉樹は1万3,500円で前年に比べて700円、広葉樹は1万8,300円で前年に比べて1,300円上昇した。（表20、図15）

表20 木材チップ価格（パルプ向け）

単位：円／t

年次	針葉樹	広葉樹
平均価格		
平成19年	1) 12,000	15,400
20	12,800	17,000
21	13,500	18,300
対前年差		
平成19年
20	800	1,600
21	700	1,300

注：平成19年1月から調査対象都道府県を変更したため、過年次価格の遡及ができないことから、19年以降の価格のみを掲載した。

1)が付いた価格は、調査対象工場への消費税の取扱いの確認が困難なため、消費税を含む価格と含まない価格を集計した結果である。

図15 木材チップ価格の推移

